

■ ロビン・ロイド (Robbin Lloyd) プロフィール

民族音楽奏者、音楽講師、音楽セラピスト、詩人、。。。。

イリノイ州 (USA) 出身。4歳からドラム、7歳からギターを始め、民族音楽 (ワールド・ミュージック) を中心に学び、奏で、教えることに人生をかけてきた。

大学卒業後、アジアを拠点に活動。50カ国以上を旅し、多くのミュージシャンと共に音楽を楽しみ、旅で出会う原生林や熱帯雨林、山や川、砂漠、鳥の声、動植物などからインスピレーションを得る。

ソロでもグループでも活動し、カリンバ (アフリカ)、笛 (アジア・ヨーロッパ)、尺八、三線、パーカッションなどさまざまな民族楽器に囲まれ、マルチ・プレイヤーとしての評価が高い。聴衆は0歳から102歳まで、会場はホームコンサートやお寺での演奏から文化ホールや野外の大会場までと幅広い。ワークショップも人気。また、お年寄りや障害を持つ方たちのための音楽療法の実践と普及にも努めている。マスメディアはできる限り避けつつも、20枚以上のCD製作に参加し、折に触れラジオやテレビでその音楽が流れることがある。2008年9月にCD付き絵詩集『HAPPY BIRTHDAY Mr. B!』、2010年10月に子供の世界を描いた詩集『1年に1度のアイスクリーム』を出版。2016年4月に新作『Just Like This』をリリース。

毎月、ドラムサークル、お寺の朝瑜伽 (瞑想会) も行っている。音楽の他、エッセイ書たり写真を撮ったり、長い散歩をしてお気に入りの喫茶店でチャイを飲みながら本を読んだりしていると幸せ。

子供向け、学校、PTA など

子どもたちにとって、保育施設で聞く音楽が、生まれて初めての「生」の音楽になるかもしれない。すべての子どもは魂に音楽を持って生まれてきます。一人ひとりの心の中に音楽が流れています。音楽のルーツは自然の中にあり、自然な素材の手作り民族楽器にはヒーリング効果があります。

色々な国の楽器を使って、子供の年齢、参加者数に応じてプログラムを作ります。家族の参加も歓迎です。

保育園、幼稚園の場合、言葉ではなく、優しい音、楽しい音に重点をおきます。子供たちが拍手や足踏みでどんどんのっていきます。

小学生以上は、上記のプログラムに加えて、地球儀や大きな地図を使いながら、学校や家では習わないようなことを、世界の楽器とともに話をします。日本、アフリカ、その他の童謡を演奏することもあります。先生たちも勉強になることがあるかも知れません。

参加者数によっては、プログラムの後半にシェーカーを配り、全員で一緒に演奏したり、歌ったりします。小さい子供たちは、自然に立ち上がって踊り始めることもしばしば。

中高生向きには、国際交流のための「Q&A コーナー」も設けます。

全校生向きの芸術鑑賞会には、南アフリカ人、日本人、アメリカ人のトリオ「アフリカ、アフリカ、アフリカ」の演奏と話がおすすです。

日本中、世界中で30年以上の経験を持つロビンにおまかせ！きつとご満足いただけるプログラムを用意します。

とにかく！ **Robbin loves children and you'll surely have a Wonderful time!**

*音楽療法

民族楽器を使った音楽活動を活発に行い、自然に根ざし、本来の癒しをもたらす音楽とはどのようなものか一般に紹介しながら、全国各地の高齢者施設や障害者施設、病院、ホスピス等で音楽療法の実践を行なってきた。1998年から京都音楽院国際音楽療法センター、その後すずらん音楽療法研究所（愛知県）にて講師。音楽療法静岡フォーラム第4回研修会にてシンポジウムのパネリスト、2006年京都音楽院にて行われた「心の架け橋としての音楽療法」セミナー講師を務める。その後「長崎おぢか国際音楽祭」の音楽療法講座で講師をつとめる。2008年日本での10年にわたる高齢者施設での思い出をもとにした絵本『Happy birthday Mr.B』を出版。数年続けて、日本音楽療法学会近畿学術大会にてワークショップを担当。日本音楽療法第11回全国学術大会、2016年独立行政法人国立病院機構全国保育士協議会第31回総会及び学習会、2017年日本医療保育学会第14回全国研修会等で講演。また、CD『コップがいっぱい』を兵庫県武庫川すずかけ作業所と協同で制作し、作業所に通う方々の作品紹介やミュージック&アート・セラピーを各地で開催している。現在は、数箇所の施設（高齢者、身体障がい者、知的障がい者の方々のための施設、児童デイサービスなど）で定期的に音楽療法を施しつつ、各地の音楽療法セミナーの講師も務めている。